

令和 2 年度 西が岡小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び，自ら考え，主体的に判断して生きていくことのできる，心身ともに健康で，心豊かな，たくましい児童を育成する。

<目指す児童像>

- (1) 明るく元気な子ども（体力・気力） (2) よく考えて学習する子ども（創造力）
(3) 心豊かで思いやりのある子ども（責任・思いやり）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の達成を目指し，子どもの自主性を育て，希望に満ちた明るく，楽しい学校づくりをするために，全職員が和と協力，熱意，そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取組み，新しい時代の教育に向けた持続可能な活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

<目指す学校像>

- (1) 楽しく充実し居がい感のある学校 (2) 子どもと教師が共に育つ学校
(3) 地域とともにある笑顔あふれる学校

<合言葉> 元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人のもつよさや特性を認め，自信と意欲を育む居がいのある学校・学級づくり，自主性を育てる教育活動の展開に努める。 (学級経営の充実)
- (2) 学ぶことの意義を明確にするとともに新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践を図り，学ぶことの楽しさや成就感を体感させ，自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の確実な定着に努める。 (学習指導の充実)
- (3) 情操豊かな教育環境と道德教育の充実を図り，「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」を育み，心豊かでたくましい子どもの育成に努める。 (心の教育の推進)
- (4) 全教職員の共通理解のもと，児童理解及び保護者との情報共有に努めることで，児童・保護者との信頼関係を深め，規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。 (児童指導の充実)
- (5) 進んで運動に親しむ体育指導と，健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り，健康・体力の向上に努める。 (体力の向上と保健安全教育・食育の充実)
- (6) 学校園として認め励ます指導を通して自尊感情を育み，学習や活動の交流を図り，小中一貫教育を推進する。 (小中一貫教育の推進)
- (7) 多様性と人権を尊重し，特別支援教育の視点を大切にした教育環境の醸成に努める。 (特別支援教育の推進)
- (8) 常に自己の資質向上に努めるとともに，コンプライアンス及びアカウンタビリティを意識し，子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。 (教職員の資質の向上)
- (9) 家庭や地域との連携と情報発信の充実に努め，地域とともにある学校づくりの推進に努める。 (地域とともにある学校づくり)
- (10) 教育の重点化，ICTの活用，協働体制の確立，報・連・相体制の徹底，保護者や地域の教育資源の有効活用，出退勤時刻の管理等により教育の効率化を図り，教職員の働き方改革を推進する。 (教職員の働き方改革の推進)

【宝木地域学校園教育ビジョン】 「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を旨として

- 豊かな心の育成 ・規範意識と自尊感情の育成
・生命を尊重し相手を思いやる態度の育成
・自然，文化，芸術に親しむ感性の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」の示すところに従い公教育の立場を堅持し，本校の教育目標達成

のため、調和と統一ある教育課程を編成する。

- (2) 児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 本年度の学校教育目標、学校経営方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

1 学校運営

落ち着いた学校生活のもと、縦割り班活動を中心とした体験活動や道徳教育、読書活動などを通して豊かな心と自主性を育み、特別支援教育の視点を取り入れた分かる授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

新学習指導要領の趣旨を受け止め、明確なビジョンをもった教育課程の編成・実施による教育活動を推進し、新しい時代へ向けた持続可能な教育体制を目指すとともに、働き方改革を積極的に推進する。

2 学習指導

児童の実態や特性を踏まえ、新学習指導要領の趣旨を具現化した分かる授業を展開し、学習意欲の向上に努めるとともに、家庭学習の習慣化を図り基礎学習の定着に努める。

3 児童生徒指導

道徳教育や学級経営の充実を図り、具体的な活動を通して「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。

4 健康（保健安全・食育）・体力

体育、保健、食育指導の連携をもとに、自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識できる児童の育成に努める。

5 教育の効率化

教育の重点化、ICTの活用、協働体制の確立、教職員の勤務時間の管理により教育の効率化を図り、働き方改革を進める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上	① がんばりカードや音読カードを活用し、自分の学習を振り返ることができるようにする。 ② 「聞き方・話し方・姿勢」を掲示し、意識付けを図る。 ③ 「家庭学習のすすめ」を自主学習ノートに貼り、それを見ながらどんな内容にするかを自分で決めて、進んで学習できるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が95.5%で目標を達成している。 ・児童は、授業に真剣に取り組み、話をしっかりと聞いたり発表したりすることができた。 ・進んで学習に取り組めるように、密にならないように学習形態を工夫したことで、よい結果が出ている。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、状況に応じた学習形態を工夫し、進んで学習に取り組めるようにしていく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」の肯定的な回	① 体験活動と関連を図った道徳や総合的な学習の時間の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や思いやる心などを涵養する。 ② 豊かな感性の育成を目指した読書活動を推進する。 ・ボランティアによる読み聞かせ ・読書週間の活用	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答が100%で目標を達成している。 ・縦割り班活動を通して、上級生が下級生に対して優しく接し、思いやりの心が育っている。 ・道徳や総合的な学習の時間等の授業を中心に、生命や人権を尊重する思いやりの心を

答 ⇒教職員 85%以上	③ 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ④ 「命の授業」や「人権の授業」を授業参観等で公開したり、親子学習で取り上げたりして、保護者への啓発を行う。 ⑤ 小中連携した「宮っ子心の教育」を推進する。	育んできた。 【次年度の方針】 ・授業参観で道徳の授業を公開し、保護者への啓発を行う。 ・図書ボランティアとの連携を図り、読書活動を積極的に推進していく。 ・引き続き異学年の交流活動を通して、思いやりの心を育てていく。 ・人権週間に児童が人権標語や作文を書いたり、集会活動を実施したりすることで人権意識を高めていく。
A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活している。」の肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 全職員の共通理解のもと、朝会・全校集会で全校児童に話をしたり、発達段階に応じて各学級で指導したりして、基本的生活習慣の定着を図る。 ・休み時間の過ごし方 ・授業の始まりの準備 ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・廊下の歩行（教室移動時・休み時間） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。 ・良かった点を朝会で称賛する。 ・児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかける。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が88.0%で目標を達成している。 ・コロナ感染症予防の対策について、児童は前向きに取り組んでいた。また、放送機器を有効的に活用して、コロナ感染症予防の対策について呼びかけを行った。 ・「よい子の一日」や月の生活目標を意識して生活をおくれる児童が増えてきている。 ・業間や昼休みには、教職員が交代で校庭、校舎内の巡視を行い、児童が安全に生活できるよう指導してきた。 【次年度の方針】 ・ルールやマナーの遵守について、学級で友達と良かった点を認め合えるようにしていく。 ・次年度も引き続き、業間や昼休みの校庭、校舎内の巡視を行い、児童の安全指導を行う。
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 代表委員を中心とした、あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・低・中学年の自主的な参加を推進 ② 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会で保護者や地域の方々に周知する。 ・家庭での習慣化 ③ 地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で指導を継続する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が95.5%で目標を達成している。 ・あいさつ強化週間中の様々な取組により、児童に挨拶の習慣が定着してきている。 ・児童は校内に限らず、登下校中のあいさつができる児童が増えてきている。 【次年度の方針】 ・次年度も代表委員を中心としたあいさつ運動を継続し、学校全体のあいさつを活性化していく。 ・登下校指導の際、自発的に挨拶ができるように指導・奨励する。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 様々な授業において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が89.9%で目標を達成している。 ・学級活動や帰りの会で互いに認め合う場を設定し、多くの児童を称賛することができた。 ・コロナ禍で制限はあったが、児童一人一人が目標に向かって粘り強く取り組んでいた。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートや各種振り返りカードを活用して、活動の振り返りを行い、達成感を味わえるようにする。 ・今後も児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努め

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。 ② 生活チェックシートを活用して、担任や養護教諭、栄養士等による個別指導を充実する。 ③ 「おべんとうの日」には、栄養のバランスを配慮した献立が立てられるように、発達段階に応じて、ワークシート等を活用して支援する。	B	る。 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が95.8%で目標を達成している。 ・児童は、校庭での遊びのルールを守って過ごしていた。しかし、廊下や登下校の歩行は、今後とも指導が必要である。 ・放送機器を活用してコロナ対策の指導を行ったことは有効であった。 【次年度の方針】 ・学校での生活のルールについては、徹底が図れるように継続して指導していく。 ・今後も、お弁当の日は、ワークシートを活用して栄養バランスに着目した食育が進められるようにする。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 宮・未来キャリア教育に関わる活動を生活科、総合的な学習の時間等の年計へ位置づけし、系統的に学習する。 ② 地域人材やボランティアを活用し、仕事や職業観についての話を聞く機会や体験的活動を設定して、学習や生活と職業とを関連付ける。 ・2分の1成人式（4年） ・夢いっぱい教室（6年） ・町探検（2年）	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が89.9%で目標を達成している。 ・コロナ禍により規模を縮小したが、一定の成果を上げることができた。 【次年度の方針】 ・地域人材やボランティアを活用して、2分の1成人式、夢いっぱい教室、町探検などの活動に継続して取り組んでいく。 ・児童の様子については、随時、学校・学年便り、ホームページ等で知らせていくことで、保護者への啓発を図る。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 低学年から、学級担任やALTによる指導を系統的に行い、コミュニケーション能力の育成を図る。 ② 職員研修で英語の教材開発やICTを活用した指導法の工夫や改善などを行い、授業力の向上を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・英語の学習に意欲的に取り組み、進んで英語で話そうとする児童が多い。 【次年度の方針】 ・引き続き、学級担任やALTによる指導を系統的に行っていく。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が77.9%で目標を達成していない。 ・各教科や総合的な学習の時間、校外学習等で、身近な地域や宇都宮市の良さに気付くよう働きかけてきた。 【次年度の方針】 ・社会科や総合的な学習の時間に、「宇都宮学」を年間指導計画に沿って継続して学習することで、宇都宮の良さに目を向けられるようにする。 ・地域を知るボランティアティーチャーを活用して、児童が宇都宮の歴史や良さを学ぶ機会を設けたが、まだ定着していないので、次年度も引き続き行っていく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】	① 児童が授業においてICT機器や図書資料を活用して、情報を収集・整理・発信する活動を充実させ、それらを活用する能力の育成を図る。 ② 図書館の環境整備に努め、授業に関連	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が89.3%で目標を達成している。 ・ICT機器や図書資料を活用する授業を行ってきた。

目 指 す 学 校 の	全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上	する図書資料を計画的に準備し、国語の教材や総合的な学習の時間の調べ学習等に役立てる。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	【次年度の方針】 ・ICT機器が更新されることを受け、教師自身が使い方や機能について学び、授業での効果的な活用ができるようにする。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上 ⇒教職員85%以上	① 体験活動と関連を図った総合的な学習の時間や道徳科の授業を実施し、高齢者に対する感謝やいたわりの心を涵養する。 ② 運動会に高齢者（宝木荘を含む）を招待し、来校された方に感謝の言葉を贈ったり、交流種目を設けたりする。 ③ 宝木荘の高齢者との交流活動を年計に位置付け、計画的に実践する。 ・宝木荘訪問（1，4年）	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が91.6%で目標を達成している。また、教職員の肯定的回答も100%で目標を達成している。 ・児童は、生活科や総合的な学習の時間の体験活動を通し、地域の方と交流したことで、感謝や思いやりの心が育まれた。 【次年度の方針】 ・今後も体験活動と関連を図った生活科・総合的な学習の時間や道徳科の授業を実施する。 ・宝木荘の高齢者との交流活動を年計に位置付け、計画的に実践する。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 各教科・総合的な学習の時間等の環境教育を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が66.7%で目標を達成していない。 ・環境教育や防災教育を実施しているが、「持続可能な社会」についての指導が不十分であった。 【次年度の方針】 ・環境教育について、系統的に取り組めるよう年計を見直し、明確に位置づける。 ・教職員が「持続可能な社会」についての研修を行い、理解を深め、指導力の向上に努める。
	B1 児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主的な学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 ・音読と個に応じた宿題の徹底 ・発達段階や個に応じた自主学習の進め方の指導 ・家庭学習の時間・やり方・内容の提示 ・学級懇談等での保護者への啓発 ② 自主学習の例を掲示して、よい取組を児童や保護者に知らせていく。 ・昇降口前の掲示（学習チャレンジ週間） ・終わったノートの教室掲示 ・リレー自主学習（全学年）	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答が81.2%で目標を達成している。 ・リレー自主学習や友達の自主学習ノートを参考にして、工夫して自主学習に取り組む児童が増えてきた。 【次年度の方針】 ・引き続き、参考となる自主学習ノートを例示する機会を設け、児童や保護者に啓発していく。 ・次年度も、全学年で「リレー自主学習」を行うようにする。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 校内支援会議を計画的、または必要に応じて開き、個に応じた具体的な支援について協議し、共有して組織的な体制で対応する。 ② かがやきルーム支援員と、日常的に情報交換を行い、児童の状況把握をして、学級での指導に生かしていく。 ③ SCや他の外部機関と連携し合って、個に応じたよりよい支援の在り方について考え、指導に生かしていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・全職員で協力して、児童の実態に応じて組織的な体制で対応し、適切な支援をすることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、校内支援会議の実施、かがやきルーム支援員との日常的な情報交換、SCや他の外部機関との連携等を行い、特別な支援を必要とする児童への適切な支援をしていく。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 教育相談を年間2回実施し、児童の実態の把握と早期発見に努める。 ② 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施するとともに、保護者にも公開し啓発に努める。 ③ いじめ防止に関する資料や学校での取組を、懇談会や学校便り、HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答が96.9%で目標を達成している。 - いじめ防止対策の取組について、保護者へ、各種便りやホームページなどで学校の取り組みを随時周知した。 【次年度の方針】 - 次年度も教育相談や人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施する。 - いじめ防止に関する資料や学校での取組を、学校便りやホームページ等で保護者や地域に積極的に発信する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 児童の自己肯定感や安心感が高められるよう教師の言葉がけや雰囲気作りに努める。 ・ソーシャルスキル ・エンカウンター 等 ② 職員会議後に不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換会を実施し、全職員が情報を共有する。 ③ 家庭訪問を通じた積極的な支援と働きかけを行う。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答が96.4%で目標を達成している。 - 児童指導についての情報交換を行い、教職員は共通理解のもと、適切な学級経営を行っている。 - 各担任は学級や児童一人一人の状況に合わせて臨機応変に対応することができた。 【次年度の方針】 - 教育相談や学校生活アンケートの結果を生かしていじめの早期発見に努め、早期解決につなげる。 - 職員会議での児童指導情報交換会において全職員で情報共有を図る。 - 状況に応じて積極的な別室登校を推進し、家庭や児童への支援や働きかけを継続していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 外国人児童について教職員で共通理解を図り、必要な支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行う。	B	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 - 特別な支援を必要とする児童に対して、適切な支援を行っている。 【次年度の方針】 - 特別な支援を必要とする児童について、教職員で共通理解を図り、必要な支援を組織的に行う。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 学校行事や児童会活動に児童が主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の達成感・自己肯定感を高める。 ② ペア学習やグループ学習などの多様な学習形態を取り入れたり、体験的活動の場を設定したりして、児童の意欲を高める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答が94.4%で目標を達成している。 - 学校行事や児童会活動を通して、児童の達成感や自己肯定感がおおむね高まってきている。 - ホームページを活用して、児童が活動する姿を積極的に発信した。 【次年度の方針】 - 今後も児童の意欲を高められるような活動の場を設けていく。 - 今後もホームページを活用して、児童が活動する姿を発信していく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図	① 全職員共通理解のもと今年度の学校課題の研究を進める。 ② 授業研究を行い、指導方法の工夫・改	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が98.3%で目標を達成している。

っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・一人一授業公開 ・授業改善チェックリストの活用 ・ヒントカードや教材提示の工夫 ③ 具体的な学習の取組の状況や研究の様子、要請訪問などについて、学びの広場で取り上げ、学校での研究の様子を保護者に知ってもらう機会にする。 ・学習チャレンジウィークの実施 ・学びの広場の発信 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 ④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れ一人一人の意欲を高める。	・全職員が共通理解を図り、指導方法の工夫や改善に取り組んできた。 ・児童の実態に即した指導の在り方を検討し、実践することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、一人一人に応じた分かりやすい丁寧な指導を実践していくことで、学力向上を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切にしよう。 ② 全職員が職員会議や学年会での児童の情報交換を密にし、共通理解を図る。 ③ 朝の学習や給食指導の際には、担任以外も学級支援に関わる。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・コロナ禍においても、学習指導員、SSSを含めた全職員による児童へのきめ細かい指導や支援がしっかりと行われ、児童に対して効果的にはたっている。 ・保護者からは、教職員のチームワークの良さが、学校全体の明るさにつながっているという評価があった。 【次年度の方針】 ・職員会議や打合せにおいて、児童の情報交換を行い、日々の支援に生かしていく。 ・朝の学習や給食指導に担任以外が加わり、基礎的・基本的な内容の習得や給食指導の充実を図っていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 職員研修等において働き方改革の意識付けと具体的な取組の共通理解を図り、教職員一人一人が、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② ポータルサイトや学習情報システム等を活用して、業務を効率的に遂行できるようにする。 ③ 職員会議等の協議事項を精査して時間の短縮を図ったり、学校行事等の見直しを行ったりして、学校運営の改善を行う。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が83.3%で目標を達成している。 ・新型コロナ対策を含めた教職員への意識付けやリフレッシュデー等の取組により、平日における時間外勤務時間は改善された。しかし、業務の効率化は十分ではないので、今後も、働き方の見直しが望まれる。 【次年度の方針】 ・打合せや研修等で教職員の意識の高揚を図る。また、リフレッシュウィークを設定し、その中で勤務時間を意識した効率的な働き方に努める。 ・再度、学校行事を精査し、ねらいや活動内容等の改善を行う。 ・職員会議の時間短縮を図るためにも、協議事項は起案段階で綿密に検討する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が	① 乗入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ② 行事や児童会活動・集会活動等での交流を実施していく。 ・あいさつ運動 ・音楽朝会での発表	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が86.3%で目標を達成している。 ・新型コロナ感染症対策のため計画していた活動がほとんどできなかった中で、乗入れ授業は実行できた。また、コロナ対策を考えた「あいさつ運動」や、陸上競技大会の

連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上	③ 「地域学校園の日」を活用して研修や情報交換を行い、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。 ・宝木学校園「生活のきまり」 ・自主学习推進 ・学習のきまり	代わりに細谷小との陸上記録会を行うなど工夫して活動することができた。 【次年度の方針】 ・地域学校園便りで交流の様子を保護者に配付だけでなく、令和2年度のようにホームページで発信し、地域にも周知する。 ・コロナ対策で活動を見直さなければならぬので、持続可能な活動内容を検討していく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① P T Aや地域協議会等を活用し、各教科・領域で更に充実した体験活動を推進する。 ・ふるさと教室（昔遊び・昔の暮らし） ・読み語り（陽だまりの会・下野民話の会等） ・学習会 ・農業体験（田植え、稲刈り） ・町探検ボランティア ・ミシンボランティア 等 ② P T A学年委員や地域コーディネーターと連携して、活動内容の充実を図る。 ③ 「にじいろの会」を活用し、図書館の環境整備や本の修繕を通して、図書館経営の充実を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・地域協議会や保護者等と連携し、コロナ禍においても、フェイスシールドを使うなど様々な工夫をして体験活動の活性化や充実が図れた。学習会は実施できなかったが、ふるさと教室、食農体験の稲刈り、読み語りなどでたくさんのボランティアの協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ・学校行事や各学年の活動の様子を学年便りやホームページで紹介し、保護者や地域の方が児童理解を深め、ボランティア活動への協力参加を促す。 ・コロナ禍においても、ボランティアと一緒に工夫をして活動できるものにしていく必要がある。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」における肯定的回答 ⇒保護者 90%以上	① 全学年で行政や企業と連携した出前授業を実施し、保護者にも積極的に参観を呼びかけていく。 ・環境教育（富士重工業） ・モノづくり教室（日産） ・上下水道局 ・薬物乱用防止 ・人権教室 ・リコーダー教室 ・歯磨き教室 等 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、学校運営の充実を図る。 ・体験活動（昔遊び・昔の暮らし） ・安全ボランティア ・放課後子ども教室 ③ 外部団体と連携した授業の様子は、学校便り、HP等で積極的に分かり易く家庭・地域へ情報を発信していく。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が92.6%で目標を達成している。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、計画していた活動ができないものがあった。しかし、いつもとやり方を変え、放送を中心で行った「人権朝会」、見学には行けなかったが出前授業をしてもらった「上下水道」など、色々工夫して、よりよい児童の育成に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・やり方を工夫して、コロナ過でもできる形で実行していく。 ・外部団体と連携した授業の様子は、学年だよりやホームページ等で、保護者や地域に積極的に情報発信する。 ・ホームページの作成に当たっては、目標設定や担当チームの負担分散などを十分に検討し、年間を通して円滑に発信できるように配慮する。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 毎月、校舎内外の施設、設備等の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%で目標を達成している。 ・毎月、安全点検で危険箇所を把握し、学校業務嘱託員や機動班が迅速に修繕に当たることができた。 ・熱中症予防や新型コロナウイルス感染予防の対策が徹底していた。 ・熱中症対策として、スプリンクラー、扇風機、冷風機等を各教室に準備・配置した。 【次年度の方針】

				・引き続き新型コロナ感染予防対策を徹底していく。 ・前年度（令和2年度）中に、引渡し訓練に関する児童の名前（児童引渡書）等を、可能な範囲で確認しておく。引渡し訓練については、4月の段階で児童引渡書の確認を確実にしておく。
	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」における肯定的回答 ⇒教職員８５％以上	① 児童がＩＣＴ機器や図書資料を活用して、情報を収集・整理・発信する能力を育成するため、ＩＣＴ機器等の積極的な活用を図る。 ② 授業に関連する図書資料を計画的に準備など、図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が１００％で目標を達成している。 ・学年ごとに教科に関連する図書資料を一括して準備し、並行読書や調べ学習に活用した。 【次年度の方針】 ・今後導入予定の児童用パソコンの活用について、情報主任を中心に研修等を行い、教職員が授業等で活用できるようにする。 ・読み聞かせ、図書館便りを継続し、児童の読書意欲の喚起に努める。
	B2 教職員は、体力チェックや生活アンケートを実施し、健康・体力面での個別指導をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「体力チェック等を実施し、個に応じて適切に指導している。」における肯定的回答 ⇒教職員９０％以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力づくり ・朝の１分間運動の実施 ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ ② 給食・保健委員会を活用し、健康に関する児童の意識を高めていく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が１００％で目標を達成している。 ・給食委員会と保健委員会で、栄養黒板の板書や歯ブラシチェック、窓開けの呼びかけ等を行い、児童に健康への意識付けを行った。 ・特に、新型コロナ感染症への対策には、児童自身が積極的に取り組んでいた。 【次年度の方針】 ・業間、昼休みの外遊びを奨励や教科体育時のサーキットトレーニングにより、日常的に運動に親しませ、体力の向上を図る。 ・ランチルームを活用し、栄養士による栄養指導の充実を図る。
本校の特色・課題等	B3 縦割り班活動を積極的に行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「縦割り班活動を積極的に行っている。」の肯定的回答 ⇒教職員９０％以上	① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ・たて割り班による花はなタイム ・新体力テスト ・遊友タイム ・読み聞かせ ・お弁当の日 ・清掃活動 等 ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。 ・遊友タイム ・運動会 ・企画委員会との連携	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が１００％で目標を達成している。 ・新型コロナ感染予防対策のため、花はなタイム、清掃活動、遊友タイムの異学年交流活動を行った。異学年交流活動で、上級生がリーダーになって主体的に行った結果、思いやりの心が育った。 ・企画委員会主催のサマーフェスとウィンターフェスでは縦割り班で意欲的に活動する姿が見られた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍の中でも、継続的に高学年がリーダーとなる場を設けることで、充実した活動ができるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、教育目標の具現化に向けて、今年度の重点目標、具体的な取組を設定し、特色ある教育活動に取り組んできた。

昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業（3月2日～3月24日）、本年度も臨時休業（4月9日～5月31日）が実施された。

児童の安全・安心を第一に、3密を避ける指導や消毒作業等を毎日実施するなど、コロナ禍の中ではあったが、児童・家庭・地域・教職員が一体となって、感染防止対策に取り組む中で、児童の健全育成のため、防犯パトロール（4月～）、あいさつ運動（6月～7月、9月、1月）、お話会（6月～）、にじいろの会（6月～）、PTA除草作業（8月、9月）、PTA消毒ボランティア（8月～）、稲刈り（9月）、宝木地区自治会及び宝木地区まちづくり協議会防犯部会（9月）、オンライン文化祭（10月）、下野民話の会（10月）、修学旅行（10月）、米作り感謝の会（10月）、「友情の火」聖火リレー（10月）、運動会（11月）、ふるさと教室（11月、12月）、文化芸術による子供の育成総合事業-巡回公演事業-仙台フィルハーモニー管弦楽団演奏会（12月）、卒業生と校長先生との懇談会（2月）、感謝の会（2月）等の活動を実施した。

今年度の学校マネジメントの全体アンケートを見ると、28評価項目のうち26項目で、学校の目標値を上回ることができた。また、市の平均と本校の肯定的回答を比較すると、20項目のうち18項目で上回っている。全体的に、コロナ禍の中にもかかわらず、児童は、きまりやマナーを守り、思いやりの心をもって、落ち着きのある生活を送っている。また、学習にも熱心に取り組んでいる様子が見受けられる。

【学校運営に関連する評価について】

- ・「A17 学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気」の項目で、児童、保護者、地域の肯定回答が、目標値や市の平均を上回ることができた。引き続き、縦割り班活動を積極的に活用する等、児童が主体的に取り組む場や機会を、学校行事や特別活動等で意図的・計画的に実施する。
- ・「A15 不登校を生まない学級経営」「A14 いじめ防止」の項目で、児童、保護者の肯定回答が目標値を上回り、市の平均を上回る、また同等と良い結果だった。今後とも、道德教育や個に目を向けた学級経営の充実、教育相談を活用したいじめ防止について継続して取り組んでいく。
- ・「A22 地域の教育力を生かした特色ある教育活動」「A23 家庭・地域・企業等と連携・協力」の項目で、目標値を上回り、市の平均を上回る良い結果だった。これからも情報公開にも努め、地域の教育力を生かした教育活動が展開できるように努めていく。

【学習指導に関連する評価について】

- ・「A12 持続可能な社会についての関心」の項目で目標値を下回り、児童の肯定回答も市の平均を下回った。今後は、児童の発達段階に応じた教材分析や授業づくりをさらに行うとともに、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育てていく。
- ・「B1 家庭学習」の項目で、児童の肯定的回答は目標値を上回ることができたが、保護者は76.6%と、昨年度より1.3%の改善が見られたが低い結果だった。今後とも、西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用して、学年に応じた家庭学習が習慣化できるよう指導していく。家庭にご協力をお願いしていく。

【児童生徒指導に関連する評価について】

- ・「A4 あいさつ」の項目で、地域94.4%に向上し、児童の肯定的回答は目標値を上回ることができたが、保護者84.1%と低い結果だった。これからも、「元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡」の実現のため、あいさつの習慣化と児童が自ら主体的にあいさつできるように、あいさつの意識化・実践化に取り組んでいく。家庭でも児童のあいさつ習慣が身に付くようご協力をお願いしていく。
- 「A21 小中一貫した取り組み」については、保護者の肯定的回答が86.3%であり、数値目標を上回っている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3密を避ける指導を継続し、児童の安全・安心を第一に、今後とも、共通課題の達成に向けた取組を継続するとともに、活動を精選し質を高めていく。

【健康（体力・保健・食・安全）に関連する評価について】

- ・「A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」「B2 体力チェック等を実施し、個に応じて適切に指導している。」等の項目で、目標数値指標を上回っており、令和元年度同様、肯定的な評価だった。今後とも、体力チェックや生活アンケートの結果をもとに個別指導を充実し、児童の健康への意識を高めていく。

【教育の効率化に関連する評価について】

- ・「A19 学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」の項目で、教職員の肯定的回答が目標数値指数を上回っているが、業務の効率化は十分ではないので、打合せや研修等で教職員の意識の高揚を図ったり、リフレッシュウィークを設定したりするなど、今後も改善に取り組んでいく。

7 学校関係者評価

- ・児童は、素直で、マナーを守り、楽しく学校生活を過ごしている。
- ・児童は、前向きに、元気に、取り組んでいる。児童が元気に挨拶する声が聞こえる。さわやかな朝の一時を感じる。
- ・コロナ禍の中でも、先生方の前向きに行動する姿に、子供たちも新しい生活様式に順応して、落ち着いて、学習に取り組み、充実した学校生活を過ごしている。
- ・コロナ禍の中、児童は、給食の時間、今の状況（新しい学校生活）を踏まえ、（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）話をせずに給食を食べるなど、がんばっている姿に感心した。
- ・コロナ禍で、子供たちは、学校でも、家庭でも、ストレスを抱えていると思う。ルールを守ってというのが前提ではあるが、子供たちが、できる限り、のびのびと過ごせる環境づくりに努めていって欲しい。
- ・学校を離れた放課後、下校中のきまりやマナーを守ってくれるといい。
- ・親として子供の見本となっているか心配である。児童は、大人の姿を見て学ぶことが多いので、大人として恥ずかしくない行動を心掛けていきたい。
- ・学校内では、先生方が微に入り、細にわたり、手を尽くされており、その成果が感じられる。
- ・地域住民からの評価が低い点については、目の届く範囲とそれ以外での違いがあるかも知れない。
- ・コロナ禍の中、学校側が、毎日の学校生活の中で工夫していただき、子供たちも安心して生活できている。
- ・学校ホームページの更新も頻繁に行われて、学校の様子が分かる。来年度も同様をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校運営の状況、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色・課題などの多くの事項については、概ね目標を達成することができた。

西が岡小学校の歴史と伝統を重んじ、「元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡」の実現を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、創意工夫をこらした教育活動を展開し、誰もが安心して学べ、活力にあふれる、地域とともにある学校づくりを推進する。

コロナ禍の中、児童の安全・安心を第一に、あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動等を活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるよう、地域ぐるみのあいさつ運動を、今後も積極的に展開する。

次年度も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色などについて積極的に公表しながら、今年度の取組を継続・発展させ、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域ぐるみで学習環境を整えていく。

「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、これまでの実践を継続していくとともに、通知や各種たよりを工夫するなどして、保護者や地域の方々への周知を図っていく。

特に、地域とともにある学校を目指して、積極的な情報の発信・提供に努め、地域に開かれた学校の実現に取り組む、地域に根差し、地域から信頼される学校づくりを推進していく。

これからも、地域や保護者からの建設的な声を学校運営に反映し、改善を図りながら、教育活動の充実に努める。

今後とも、児童の安全・安心を第一に、『学校における新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』文部科学省、「新型コロナウイルス感染症 学校における対策マニュアル」栃木県教育委員会、「学校における新型コロナウイルス感染症に係るガイドライン」宇都宮市教育委員会に基づき、3密を避ける指導や消毒作業等を毎日実施し、児童・教職員・家庭が一体となって感染防止対策に取り組んでいく。